

## 原理用語に関する補足説明

### §1 創造原理における「形状」という言葉に関して。

創造原理における「形状」という言葉は、韓国語の『原理講論』では「형상(形状)」と書いてあるが、この「형상」(ヒョンサン)という韓国語の意味を、聖書と『原理講論』から考えてみる。

『原理講論』前編第一章第一節(一)「神の二性性相」を見ると、創世記1章27節とコリント人への手紙第一11章7節が引用されている。特に、創世記1:27の聖句は、「人間は神の形状である」(47頁7行目)と解釈されているので、このような解釈が本当に成り立つかどうか、聖書の原文を調べてみることにする。

創世記1:27で「かたち」と訳されているヘブル語は「ツエレム **צֶלֶם**」である。また、第一コリント11:7で「かたち」と訳されているギリシア語は「エイコーン *εἰκών*」である。「ツエレム **צֶלֶם**」も「エイコーン *εἰκών*」も、英語に訳すと”image”であり、韓国語訳聖書では「형상」(ヒョンサン)と訳されている。「형상」(ヒョンサン)という韓国語は、漢字では、「形相」や「形象」や「形状」と表記できるにもかかわらず、韓国語の『原理講論』では「形状」だとされている。原理のこの解釈は正しいのか。

創造原理における「形状」という言葉は、英語訳『原理講論』で”external form”と訳されている。(この英語訳は正確である。)しかし、「ツエレム **צֶלֶם**」にも「エイコーン *εἰκών*」にも”external form”という意味はない。よって、「ツエレム **צֶלֶם**」や「エイコーン *εἰκών*」の訳語としての「형상」(ヒョンサン)という言葉は「形状 external form」と解釈するのは間違っている。

以上のことから、原理は聖書のことばを全く異なった言葉にすり替えていることがわかる。原理の聖書解釈はあり得ない。

#### 参考文献

1. F. Brown, S. Driver, C. Briggs, *The Brown-Driver-Briggs Hebrew and English Lexicon: With an appendix containing the Biblical Aramaic: Coded with the numbering system from Strong's Exhaustive Concordance of the Bible*, Reprinting of the 1906 American edition, Hendrickson Publishers
2. Joseph H. Thayer, *Thayer's Greek-English Lexicon of the New Testament: Coded with Strong's Concordance Numbers*, Reprinting of the fourth edition, Hendrickson Publishers, 1896
3. 大阪外国語大学朝鮮語研究室編『朝鮮語大辞典』初版, 角川書店, 昭和61年

## §2 「罪を清算する」という用語に関して。

罪を負債のように清算できると考えること自体、間違っている。旧約聖書にも新約聖書にも「罪を清算する」という言葉どころか、概念すら全くない。よって、原理は根本的に聖書とは異なった教理を主張していることになる。

罪は赦されるものだと聖書は教えている。例えば、レビ記4:20, 26, 31, 35, 5:10, 13, 16, 18, 26, 19:22などを調べると、「赦される」という意味のヘブル語は「ニスラフ נִסְּרָף」となっている。「ニスラフ נִסְּרָף」は「サラフ סָרַף」のニフアル態（受身形）で、「サラフ סָרַף」には「赦す」という意味しかない。「清算する」という意味は全くない。

あるメンバーは「主の祈りには『わたしたちの負債を』（口語訳）とある」と言っていて、原理で罪を負債のように考えることを正当化している。しかし、この祈りの動詞は「アフィーエーミ ἀφίημι」というギリシア語で、「赦す」という意味である。「アフィーエーミ ἀφίημι」に「清算する」という意味はない。また、「負債」と訳されているギリシア語「オフエイレーマ ὀφείλημα」の意味は、織田昭編『新約聖書ギリシア語小辞典』（教文館、2002年、427頁）では次のように説明されている。「（アラム語では負債と罪とを同じ単語で表したこともあって）罪の負債、（赦してもらわなければならない）罪」。つまり、主の祈りで「負債」と訳されていることは、「赦してもらう必要がある罪」を意味しているのである。よって、上記のメンバーの主張は成り立たない。

実際、「アフィーエーミ ἀφίημι」というギリシア語は、ルカ5:20などで「罪を赦す」という意味で使われている。

新約聖書に出て来る「清算する」という意味のギリシア語は「シュナイロー・ロゴン συναίρω λόγον」（マタイ25:19）で、直訳すると「勘定を一緒に取り上げる」となる。「シュナイロー συναίρω」というギリシア語の動詞は新約聖書の中で3回しか出て来ない（マタイ18:23, 24, 25:19）。いずれの箇所でも罪に対して使われていない。

また、旧約聖書には「清算する」という言葉自体、一度も出て来ない。

以上のことから、「罪を清算する」という概念は聖書にも全く存在しないことがわかる。そもそも、「罪を清算する」という概念を考えること自体、不可能である。

韓国語の『原理講論』には、「罪を清算する」というときの「清算」は「청산」（チョンサン）と書いてある。日本語訳『原理講論』では、この韓国語は「清算」と正確に訳されている。一方、英語訳『原理講論』では、「（罪を）清算する」という原理用語は以下のように訳されているが、どの英語にも「清算する」という意味はない。つまり、すべて誤訳になっている。おそらく、この

誤訳は意図的なものであろう。「清算する」は英語で”settle”である。

以下の頁数と行数は日本語訳『原理講論』のものである。

extirpate……前編第二章第四節（五），121頁13行目  
eradicate……同上，121頁14行目  
uproot……同上，121頁15行目  
eliminate……前編第四章第一節（四），187頁6行目  
remove……前編第五章第二節（三），230頁3行目  
                  前編第七章第四節（二），268頁5行目  
                  後編第二章第三節（三）（2），431頁14行目  
resolve……前編第五章第二節（三），230頁10行目  
                  同上，231頁1行目  
purge……同上，230頁13行目  
cleanse……前編第七章第四節（一）（3），266頁13行目

#### 参考文献

4. ミルトス・ヘブライ文化研究所編『レビ記Ⅰ』初版，ミルトス，2015年
5. ミルトス・ヘブライ文化研究所編『レビ記Ⅱ』初版，ミルトス，2016年
6. 名尾耕作著『旧約聖書ヘブル語大辞典 付・アラム語』改訂3版，教文館，2003年
7. 古代語研究会編，谷川政美著『聖書ヘブライ語－日本語辞典 聖書アラム語語彙付』初版，ミルトス，2018年
8. F. Brown, S. Driver, C. Briggs, *The Brown-Driver-Briggs Hebrew and English Lexicon: With an appendix containing the Biblical Aramaic: Coded with the numbering system from Strong's Exhaustive Concordance of the Bible*, Reprinting of the 1906 American edition, Hendrickson Publishers
9. 織田昭編『新約聖書ギリシア語小辞典』教文館，2002年
10. F. Wilbur Gingrich, *Shorter Lexicon of the Greek New Testament*, The University of Chicago Press, 1965
11. Joseph H. Thayer, *Thayer's Greek-English Lexicon of the New Testament: Coded with Strong's Concordance Numbers*, Reprinting of the fourth edition, Hendrickson Publishers, 1896
12. William D. Mounce, *The Zondervan Greek and English Interlinear New Testament (NASB/NIV)*, Second Edition, Zondervan, 2011
13. John R. Kohlenberger III, Edward W. Goodrick, James A. Swanson, *The Greek-English Concordance to the New Testament*, Zondervan, 1997
14. 安田吉実，孫洛範，箕輪吉次，李淑子編著『韓日辞典』全面改訂版，民衆書林，2006年
15. 世界基督教統一神霊協会著『原理講論』第3版，光言社，平成4年